

2020年度の岡山中央福祉会事業活動のまとめ

社会福祉法人 岡山中央福祉会

I 2020年度法人・事業所の取り組みを振り返って

(1) 2020年度法人事業計画4つの視点

- 1、2030年の地域の姿を予測しつつ、法人・事業所のあるべき姿から逆算して2020年度何を成すべきかを考える視点
- 2、誰もが安全で安心して暮らし続けることのできる地域・事業所づくりの視点 — 個人の尊厳を守り、一人ひとりの思いに寄り添う支援の実現 —
- 3、法人・事業所の未来を担う「学び・考え・実践できる人づくり」の視点 — 誰もが働きやすい職場づくりの取り組み —
- 4、豊かな介護実践と職員の生活を支え、事業所の未来を守るために「3つの満足」を実現する経営活動の視点

(2) 4つの視点に基づいた20年度事業の振り返り

- 1、2030年度の地域の姿を見通して今、何を成すべきかを考える視点

①法人創立40周年事業の取り組み

法人は、1980年の法人設立以来創設40年を迎え記念事業を計画しましたが、全世界に広がる新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって中止を余儀なくされました。

②未来につながる新規事業の展開

- グループホームさっちゃん家の建て替え事業の完成（10月）
- 法人3か所目となる新居宅「穂香の里指定居宅介護支援事業所」の開設（21年4月）
- 旧健生園施設の整備と災害時における臨時避難所および、東区備蓄品倉庫への活用

③感染症・災害などリスクへの備え

新型コロナウイルス感染症は東区内においても20年末から急速に拡大しクラスターの発生、法人職員、サ高住入居者への感染等事業所への脅威となりました。一方で、各事業所における感染防止の取り組みは進みました。

- 2、誰もが安全で安心して暮らし続けることのできる地域・事業所づくりの視点

①新型コロナ感染拡大への各事業所の対応

法人内事業所の入居者・利用者・職員を感染の脅威から守るために、面会制限・行動制限の強化、空気清浄機・オゾン発生器の設置、パーテーションの設置、消毒液・マスク・防護着・フェースシールド等の購入、空間づくりのための改修工事、職員休憩室の使用制限、更衣室の換気

②友の会地域会員を対象とした新型コロナ影響調査を実施しました

- ・会話することも減少し、言葉が出にくくなった。
- ・緊急事態前後より（中央福祉会以外の）施設に入所していた母親との面会ができなくなった。元気で過ごしている様子だったが8月に（コロナ以外の）病気を発症し、入院。その後別れとなってしまった。施設の皆さんには感謝しているがコロナ禍を無念に思う。
- ・盆踊りや老人会などの地域行事が中止。（複数回答あり）
- ・施設からの外出がままならない中、孤独になりがちでストレスをため込んでいる。情緒が不安定になり精神科外来へ再通院。

- ・新しい人とのつながり方や、正しい情報の取得など不安を一人で抱え込まないような支援。コロナに配慮しての楽しみがあればよいと思う。
- ・年に数回でもニュースのようなものがあれば、友の会会員の実感がわくと思う。
- ・福祉カフェのように70歳以上の高齢者の集まりがあると家から出るきっかけとなりみんなの元気な顔にあうこともできストレス解消にもなると思います。

多くの方が、自宅に引きこもり、情報・コミュニケーション・つながりを失い孤立している姿がアンケート結果に反映しています。

③新型コロナウイルスによる施設入所者の面会・外出・イベント制限

新型コロナウイルス感染症は、とりわけ施設入所者の日常生活に大きな影響をもたらすことになりました。今年度全てのイベントは中止となり、施設内での行事もなくなり入居者・利用者にとって寂しい日常となりました。

3、法人・事業所の未来を担う「学び・考え・実践できる人づくり」の視点 — 誰もが働きやすい職場づくりの取り組み —

表 職種別 職員採用・退職状況

| | 採用 | | | 退職 | | |
|---------|----|----|----|----|----|----|
| | 常勤 | 契約 | 合計 | 常勤 | 契約 | 合計 |
| 介護職 | 13 | 16 | 29 | 3 | 19 | 22 |
| 相談員 | | | | | | |
| 事務員 | 1 | 1 | 2 | | 2 | 2 |
| 看護職 | | 5 | 5 | 5 | 4 | 9 |
| 介護支援専門員 | 4 | | 4 | 2 | 1 | 3 |
| 栄養士 | | 1 | 1 | 1 | | 1 |
| 調理員 | 3 | 12 | 15 | 3 | 9 | 12 |
| 医師 | 1 | | 1 | | | |
| セラピスト | 2 | | 2 | | | |
| その他 | | 4 | 4 | | 9 | 9 |
| 合計 | 24 | 39 | 63 | 14 | 44 | 58 |

法人事務局に人事部を設置して5年が経過し人材確保の取り組みを積極的に取り組んできました。今年度各施設と協力し、就職説明会や学校訪問等法人の魅力伝える活動によって4月新規学卒者の採用が9人となり年度初めとしては人材が充足するという状況になりました。一方で、事業所ごとに見ると人材派遣は2019年度3事業所8名、年間人材派遣費12,070千円が20年度6事業所12名、年間派遣費18,762千円と大幅に増加しています。また、職員紹介も19年度2名 紹介料2,280千円だったものが20年度では新規居宅の開設、さくら苑の医師採用があり5事業所6名、紹介料総額は、5,121千円と倍化しています。今後、人材確保はますます、困難になります。法人人事部と事業所が協力・連携しながら、派遣や業者紹介に頼ることのない人材確保を目指します。職員紹介制度は、年度内に13名ありました。課題として紹介職員が一月以内で退職したケースもあり今後の運用において早期退職者等への対応について検討します。

3-① 介護(仕事)の魅力を伝える取り組み

- ホームページのリニューアルを委員会中心に企画しました。21年4月から新しいホームページで法人・事業所のリアルな姿を正しく伝えます。
- 「健生園ひろば」や「友の会ニュース」を一本化し新たな媒体として法人や事業所の総合的に伝えると同時に新型コロナ影響調査から多くの友の会地域会員から「紙媒体」での情報のニーズが明らかになりました。

3-② 職員採用時研修の充実・強化

- 全ての介護職の採用時研修(一週間)は十分に取り組むことはできませんでした
- 契約職員を対象とした新入職員学校は、コロナの影響もあり2回の開催となりました。

3-③ 「働き方改革」に対応して多様な職員の条件に合わせた働き方と賃金の検討

事業所の事業内容や職員の働き方が多様化する中で、役割や働き方に応じたメリハリのある仕事の内容や時間とそれに応じた賃金体系の検討を行います。

- 有給休暇の消化は、国が示す「最低5日の有給消化」がほぼ実現しました。
- 私傷病による休職が増加しました。メンタルでの休職も今年度 名ありました。また、悪性新生物による病休職員もおられ療養と仕事との両立ができる職場づくりが必要です。
- 介護職種は、一連の介護職員処遇改善加算によって毎年着実に年収が引き上げられました。一方で調理員、相談員、事務員等その他職種の引き上げ額は限定的です。その他職種の給与の改善を検討します。

3-④ 業務中の交通事故・労災が急増

2017年4月さくら苑デイケアにおける交通死亡事故以来、交通安全の意識向上に取り組んできましたが今年度再び交通事故件数が増加しています(事業所車両のみで16件)。さらに職員の通勤途上での交通事故の発生にも注意が必要です。また、介助中等業務中の負傷が例年になく増加しました。事故は天災ではありません、必ず事故が起こる原因があり事故は防ぐことができます。それぞれの事故内容を分析し今後の教訓として生かす取り組みを進めます。

4 経営活動の視点

「2020年度経営のまとめ」を参照してください